

北海道の雪氷

第26号



2007年9月

発行 (社) 日本雪氷学会北海道支部

目次

巻頭言	1
2007年度日本雪氷学会北海道支部研究発表会発表論文	3
(社)日本雪氷学会北海道支部2006年度事業報告	105
(社)日本雪氷学会北海道支部2007年度事業計画	108
2006年度収支決算及び2007年度収支予算	110
(社)日本雪氷学会北海道支部役員名簿	111
社団法人日本雪氷学会北海道支部規約	112

表紙

画 : 斎藤新一郎

題字 : 福沢卓也

巻 頭 言

支部幹事長 石井吉之 (北海道大学低温科学研究所)

7~8年前に会計幹事をさせて頂いた後、中6年をおき、今年から支部幹事長を仰せつかりました。今回は本学会が法人化されて間もない時期でもあり、様々な面で混乱や誤認識などがありました。北海道支部の内部留保金の処理も大きな問題であり、どのように有効活用しながら留保分を減額して行くかに苦慮していました。その後、本学会は時の歩みとともに法人組織としても一人前になりつつありますが、財政面の逼迫した状況は本部も支部もますます深刻化しているようです。北海道支部に関しては、代々の役員の皆様のご尽力によって、逼迫した状況を少しでも改善すべく努力がなされてきました。しかし、それでも状況は依然として改善されず、そろそろ大鉈を振るわねばならぬ段階に来ているようです。こうした運営面での疲弊した状況を打開するために、本年度からは支部役員の大規模な入れ替えに始まり、事務局幹事の役割分担制の導入、支部機関誌の有料化と電子化、メーリングリストの整備、ホームページや広報活動の活性化、社会貢献への積極的な取り組みなど、山田知充支部長のもとに大胆な改革に取り組んでいます。大枠でのルール敷設に力を注ぐあまり、細部まで目が届かず思わぬ失策があるかもしれませんが、軌道に乗るまでのしばらくの間、少し大目に見ていただければ幸いに思います。

支部会活動に深く関わる度に、私の中では「どうあるべきか論」が頭を擡げて来ます。ローカルであり過ぎていけません、一方ではローカル色豊かでもありたいものです。グローバルな視点からローカルを見ないと本質を見誤るおそれがあるし、ローカルからの問題提起がグローバルを動かすことがあっても良いでしょう。両者は背反的關係にあるのではなく相互補完的關係なのだ、教科書的には理解できます。最近ではグローバルという造語もあり、ローカルな think もグローバルな act も必要とされているようですが、詰まるところ、その地域にどういう人達がいる、その人達によってどういう独特の雰囲気を作られているかが重要なのだと思われまふ。その人達の強い結びつきによって、グローバルに考え、動ける、その地域らしさが醸造できれば支部としての活動が十分に機能していると言えるのではないのでしょうか。地域はグループと呼びなおせるのかも知れませんが、同じことは学界についても言えるでしょう。狭い分野に閉じ籠ったり、ある分野だけの一人勝ちを許したりするようなローカル性豊かな状況では、遅かれ早かれその分野は衰退して行きます。雪氷学がグローバルな学問であり続けるためには、地球惑星科学、社会工学、生物資源学、生命科学などからの視座をこれまで以上に貪欲に取り込んでいく必要があります。同時に、雪氷学というローカルな場で培われて成長し発展してきた理論、技術、人材を外界というグローバルな場に送り出すことによって、雪氷学を内側のみならず外側からも大いに盛り上げてもらう必要もあるでしょう。

今年も6月に恒例の研究発表会が開催されました。当初は発表申込みが少なく関係者をヤキモキさせましたが、蓋を開けてみれば昨年を上回る26件の発表がなされ、取上げられた内容もローカルからグローバルまで多岐に渡るものでした。研究発表会が人と人との結びつきを強め合う場であることを願っております。さて、北海道支部は2009年に創立50周年を迎えます。現在、その記念事業に関する検討会が発足し意見交換を始めています。これについても追々、支部のメーリングリストやニュースレターを介して会員の皆様に情報発信して行く予定です。ご意見やご要望などございましたら事務局までお知らせください。

2007年度日本雪氷学会北海道支部研究発表会発表論文 目次

日時：2007年6月21日(木)10:00~18:30

場所：北海道大学 学術交流会館 第一会議室

1 .	連続路面すべり抵抗値測定装置 (RT3) の導入について 舟橋誠、徳永ロベルト、浅野基樹 ((独) 土木研究所 寒地土木研究所)	5
2 .	平成 18 年度冬期における札幌市中心部の歩道の路面状況について 川村文芳、金田安弘 (社団法人 北海道開発技術センター)	9
3 .	人の行動から見た雪道スリップ転倒の発生構造 新谷陽子 (社団法人 北海道開発技術センター)	13
4 .	国道 243 号美幌峠の防雪林における雪害後および向後の保育手法について 斎藤新一郎 (環境林づくり研究所)、古田隆史 (網走開発建設部北見道路事務所)	17
5 .	風洞実験による防雪林の樹木形態と防雪効果の関係について その 2 山田毅、伊東靖彦、松澤勝 ((独) 土木研究所寒地土木研究所)、 小杉健二、根本征樹、望月重人 ((独) 防災科学技術研究所)、 齋藤佳彦 ((株) 雪研スノーイーターズ)	21
6 .	気温測定からみたイチイに対する菰巻きの効果について 阿部 正明、斎藤新一郎 (社団法人北海道開発技術センター) 小松 佳幸 (日本工営株式会社札幌支店)	25
7 .	除雪圧を受けたイチイの幹折れおよび枝抜けについての解剖的な観察 斎藤新一郎 (環境林づくり研究所)	29
8 .	振動による屋根雪滑動と構造体との動的相互作用に関する基礎的研究 その 1 振動による屋根雪の破断モードと構造体の応答性状 千葉隆弘 (北海道工業大学)、宗像真木彦 (北海道工業大学大学院) 苫米地司 (北海道工業大学)、高橋徹 (千葉大学)	33
9 .	振動による屋根雪滑動と構造体との動的相互作用に関する基礎的研究 その 2 屋根雪滑動時における構造体の応答性状 宗像真木彦 (北海道工業大学院)、千葉隆弘 (北海道工業大学)、 苫米地司 (北海道工業大学)、高橋徹 (千葉大学大学院工学研究科)	37
10 .	紐状冠雪の成長抑止実験 竹内政夫 (雪氷ネットワーク)	41
11 .	人工降雪装置を用いた建物屋根上の雪庇の形成実験 堤 拓哉 (北海道立北方建築総合研究所)、根本征樹、 佐藤威 ((独) 防災科学技術研究所)	45
12 .	現地観測による道路案内標識の冠雪および落雪過程の把握 松下拓樹、伊東靖彦、加治屋安彦 (土木研究所 寒地土木研究所)	49
13 .	鉄道トンネル内のつららの観測 (第 1 報) 小川直仁 (JR 北海道)、岩花剛、赤川敏 (北海道大学大学院工学研究科)	53

14 .	小型マイクロ波放射計の積雪観測と雪氷防災への利用の可能性 榎本浩之、小嶋真輔、館山一孝、戸城亮、木村しずか、 神尾友行、内田圭一、高橋修平(北見工業大学)、 田中聖隆、谷田広紀、山本朗人(三菱電機特機システム株式会社)	57
15 .	オホーツク海北海道沿岸におけ 3ch 版可搬型マイクロ波放射計 MMRS を用いた船上海氷観測 内田圭一、榎本浩之、館山一孝、戸城亮(北見工業大学)、 豊田威信(北海道大学低温科学研究所)、瀧本忠教(海上技術安全研究所)	61
16 .	船舶搭載型マイクロ波放射計を用いた南極昭和基地沖の海水厚観測 館山一孝、榎本浩之(北見工業大学)、下田春人、 宇都正太郎(海上技術安全研究所)、牛尾収輝(国立極地研究所)	65
17 .	アラスカにおける積雪縦断観測および衛星データを用いた積雪比較 木村しずか、榎本浩之(北見工大)、Yongwon KIM(UAF/IARC)、 谷川朋範(北見工大)、門崎学(JAXA)、 斉藤佳彦((株)雪研スノーイーターズ)、戸城亮(北見工大)	69
18 .	北海道・然別の風穴地に分布する越年地下氷の形成年代と起源の推定 澤田 結基(北海道大学低温科学研究所)	73
19 .	南北両極の氷床コアに含まれる塩微粒子の分布と化学組成 Termination I における大気エアロゾルの変動との関係 櫻井俊光(北海道大学大学院環境科学院)、飯塚芳徳、堀川信一郎 (北海道大学低温科学研究所)、Sigfus Johnson、Dorthe Dahl-Jensen、 Jørgen Peder Steffensen(コペンハーゲン大学) 本堂武夫(北海道大学低温科学研究所)	78*
20 .	子ども達の雪氷防災意識向上を継続的に支える試み 中村一樹、石本敬志、久保田敬二、 三好真紀(財団法人日本気象協会北海道支社)、 的場澄人(北海道大学低温科学研究所)、 樋口和生(NPO 法人北海道山岳活動サポート)	79
21 .	豪雪地住民の人力除雪の作業能力と体力要素 須田 力(北方圏体育スポーツ研究会)、森田 勲(道医療大・看護福祉学部)	83
22 .	氷河観測における日本から送られる気象情報の取得方法 的場澄人(北海道大学低温科学研究所)、 中村一樹(財団法人日本気象協会北海道支社)、 樋口和生(NPO 法人北海道山岳活動サポート)	87
23 .	雪崩予防柵を斜面積雪がすり抜ける現象の発生気象条件について 大雪湖周辺の事例解析 松下拓樹、松澤勝、伊東靖彦、加治屋安彦(土木研究所寒地土木研究所)	91
24 .	地震発生時の斜面積雪の安全率評価に関する一考察 松澤勝、加治屋安彦、伊東靖彦(寒地土木研究所)	95

25. 2007年3月18日に積丹岳ピリカ台南斜面で発生した雪崩の調査報告 99
尾関俊浩(北海道教育大学) 上石勲、山口悟
(防災科研雪氷防災研究センター)
兒玉裕二(北海道大学低温科学研究所)
阿部幹雄、樋口和生(雪崩事故防止研究会)
26. SPP特別授業『積雪の科学』の実施について 103
平松和彦(北海道旭川西高等学校)

* 研究発表19番は、他の学術誌に投稿予定のため要旨のみ掲載した。